

## 中学校と地域が協働する防災教育活動プラン



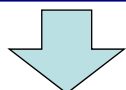
仙台市立南吉成中学校

### 1 プランの目的

少子高齢化と核家族化が進み、生徒を含む住民間の絆が懸念される地域において、**地域防災力を高める。**

- 災害時の**自助・共助の方策等**の構築
- 防災意識と災害対策・対応機能**の向上
- 防災・減災行動の習得と的確な判断能力**の育成

**中学生が核**となる**防災教育活動**に取り組み  
地域住民を巻き込む活動に発展させ、  
学校・生徒と住民間の協働体制に進化を図る



「**関わり**」・「**つながり**」が**継続・拡充**し、  
**持続可能な地域社会づくりと担い手の育成**を推進

## 2 プランの概要

- ① **中学生が主導**(中心になって活動)して、  
学校と地域が協働する**地域防災訓練**を実践
- ② **地域住民による学校支援組織**を活用し  
組織的に地域の防災教育とその実践を推進
- ③ **中学生が被災地仙台の復興支援活動**に取り組み、  
現況を知り、自己有用感や奉仕的精神を培う実践
- ④ **多彩な団体・機関等を巻き込み**、  
連携・協働による防災教育実践の拡充・発展
- ⑤ **プランの成果・課題等を実証的に検証し**、  
有効性、汎用性、継続性の追究・改良(PDCA)
- ⑥ **プランの成果・効果等を積極的に外部発信・広報し**、  
**第三者評価・助言によるプランの改良・創出**

## 3 平成24・25年度の活動概要<主に総合的な学習の時間活用>

月	平成24年度の実践	平成25年度の計画
6	①津波被災農家との交渉	①被災農家との協議
7	②津波被災農家の講演 ③農家に弟子入り除草体験 ④東北大学・体験学習	②津波被災農家の講演 ③農家に弟子入り除草体験 ④東北大・体験学習
8	⑤仙台七夕で清掃奉仕	⑤仙台七夕で清掃奉仕
10	⑥文化祭(学習成果等の発表)	⑥文化祭(学習成果等の発表)
11	⑦校内・炊き出し調理コンテスト ⑧農家に弟子入り収穫作業 ⑨ユネスコスクール東北大会で活動発表	⑦校内・炊き出し調理コンテスト ⑧農家に弟子入り収穫体験 ⑨生徒主導の <b>地域防災訓練</b>
12	⑩仙台・光のページェント奉仕活動	⑩仙台・光のページェント奉仕活動
1	⑪教育実践成果等の発信・検証	⑪教育実践の成果等・検証
2	⑫学校支援組織との活動企画を	↑教育実践の成果等発信
3	検討	⑫次年度の企画・計画の検討

仙台復興のシンボルイベント:8月仙台七夕、12月仙台光のページェント

## 4 防災教育プランの実践概要

実践のねらい	教育実践	時期
①震災と教訓を学ぶ ②復興を知る、支援する	・津波被災農家の講演 ・津波被災農家に弟子入り体験 ・仙台七夕等での清掃奉仕活動	7月上旬 7月下旬 8月上旬
③防災・減災の知識、 スキル、行動を習得する	・校内炊き出し調理コンテスト ・防災教育テーマ別・調査学習 ・中学生が主導する地域防災訓練 (避難所設営・運営、避難誘導など)	10月 11月
④プランを発信する	各種大会にて実践発表、資料公表 全国大会、東北ユネスコスクール等	10月 12月
⑤プランを評価する 自己・外部評価、 第三者評価	・PDCAによる自己・外部評価 ・防災教育チャレンジプラン & ぼうさい甲子園報告・講評	1月 2月

## 5 南吉成中・生徒による震災復興・奉仕活動

### 5-1、津波被災農家に弟子入り体験

#### (1)津波被災農家について

仙台市若林区荒浜地区(沿岸部)で、稲作を営んでいた農家がH23綿花生産組合を設立、H25に会社化

#### (2)実施内容

##### ①津波被災農家が講演

「地震・津波の体験と農業再生・復興への道のり」

平成24年7月18日

1年生107人、保護者74人



平成25年7月15日

1・2年生200人、保護者100人



5 生徒による震災復興・奉仕活動【NO1】

② 被災地の視察 と 綿花畑の除草作業<7月下旬>

H24:1年生107人

☆津波襲来の海辺を視察



☆農作業の説明と除草作業



H25:1・2年生203人

☆津波被災の校舎を視察



☆農作業の説明と除草作業



真夏の30度超えの中での農作業

5 生徒による震災復興・奉仕活動【NO2】

③ 綿の花収穫作業 と 収穫祭

H24:1年生104人

☆綿花の収穫



☆収穫祭で合唱披露

生徒たち

仮設住民



H25:1・2年生203人

☆綿花の収穫



☆収穫祭で合唱披露

農家の方々等

合唱を披露する  
生徒たち



5 生徒による震災復興・奉仕活動【NO3】

(3)生徒アンケート結果 → **H24年度の1年生の変容**

調査は五件尺度法で行い、選択肢“大いに”の割合(%)を表記

	[平成24年度]		[平成25年度]	
	〈7月〉	→〈11月〉	→〈7月〉	→〈11月〉
①自分の力が役だって嬉しい	77.0	80.7	70.1	82.8
②人を助けることは大切	90.9	87.5	82.8	87.4
③人を助け、支え合っていきたい	77.3	76.1	72.4	82.8
④苦難を乗り越える努力をしていく	76.1	76.1	77.0	79.3
⑤夢や希望を持ち続け、頑張りたい	80.7	81.8	79.3	86.2

- ・選択肢“大いに”の割合は、2年間を通じても高い割合を維持。
- ・被災農家の姿や気持ちを受け、大きく心に響く刺激や感動を享受
- ・思いやり、努力の大切さ、夢や希望に向けての頑張りを保持

5 生徒による震災復興・奉仕活動【NO4】

(4)保護者のコメント → **親子コミュニケーションへ**

〈平成24年度〉 ※ 生徒のレポート用紙にコメント欄を付記

- ①被災地の様子をしっかりと目に焼き付け、「自分も力になりたい」と、一回り成長した娘の姿を見ることが出来、かけがえのない体験ができ、親としても感謝申し上げます。
- ②何よりの体験だったと思います。自分達も復興に関わることが、他の方の役に立つことが出来るんだという経験は宝になると思います。

〈平成25年度〉

- ③いつも自分のことで精一杯なのに、人のためになることをやってみたいと思っていることに、成長を感じました。
- ④被災地の方々の生活が一日も早く復興してほしいという願いと、小さなことでも自分も役に立てるのだという気持ちを体感できた様子がうかがえました。このことを大変嬉しく思います。

※活動の素晴らしさやその成果・効果などの賞賛と実施の感謝等、親は我が子の成長に喜びを感じ、活動の継続を望んでいる。

## 5-2、本校・健全育成ボランティア組織「アルカス隊」

奉仕活動「**仙台の復興は自分たちの手で**」を実行

**仙台復興のシンボルイベント**にて **環境美化活動**

(1)8月:仙台七夕まつり前 (2)12月:光のページェント前



(2) 仙台七夕まつり開催中での清掃活動ボランティア



真夏日、  
約200万人の観光客で、  
ゴミは常に満杯  
まつり開催中の三日間で  
延べ70人の生徒が活動

## 6 校内・炊き出し調理コンテスト&レシピ集制作

(1)実施日 平成24年11月 & 平成25年10月

(2)実施学年・方法

- 1年生が生活班18(6班×3学級)ごとに調理
- 審査委員は、PTA役員4名:審査基準により賞を授与

(3)調理方法等 → **時間や調理器具、食器等を限定**

災害用の米炊き袋を用い、一食200円以内などの制限



米炊き袋の活用



タイトル『寒さに負けるな！  
ほかほかマイタケご飯』

H24

最優秀賞の炊き出し

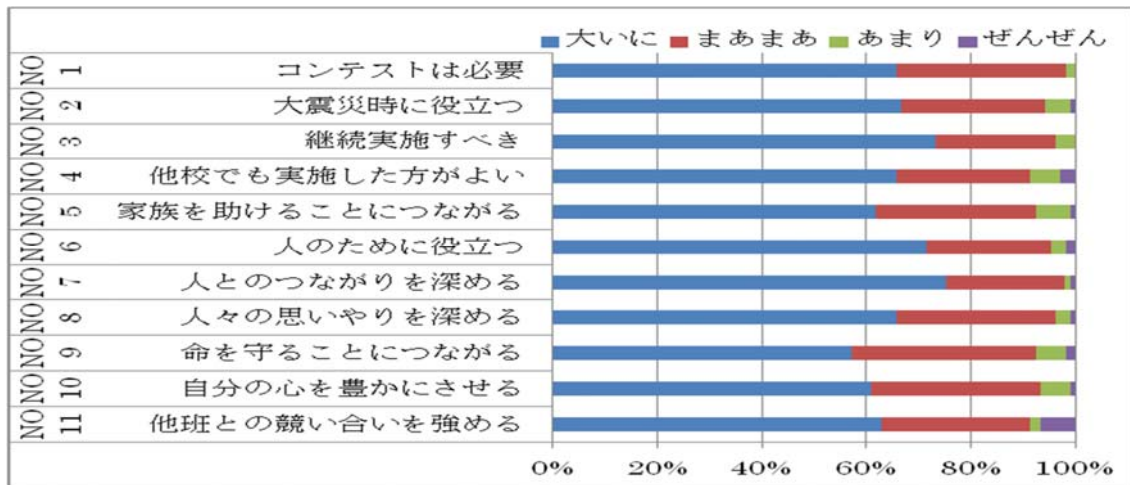


タイトル『われらのご飯！  
究極のDON』

H25

# H25「炊き出し調理コンテスト」アンケート結果

〈 調査は四件尺度法による質問紙調査〉



- ① 選択肢「大いに」と「まあまあ」をあわせると、全ての項目で9割を超え
- ② 選択肢「大いに」が7割を超えたNO3・6・7から、生徒は、コンテストの継続性、コンテストが人のために役立ち、人とのつながりを深める取組と評価

## 6 校内・炊き出し調理コンテスト & レシピ集制作



多彩な炊き出し料理の数々

## 7 防災教育の活動・学習の成果を公表・発信

### (1) 教育工学・全国大会

- 全国から小中高大・約2,000人参加
- 2年生6班36人がプレゼン



### (2) 東北ユネスコスクール

- 東北各県から約100人参加
- 2班がプレゼン、1年生100人合唱



### (3) 3年生が10テーマ調査学習の成果発表



実演しながら



展示物とともに



分かりやすく

地域住民  
と生徒に  
ポスター  
セッション

## 8 メインプラン; 生徒主導の地域防災訓練[1]

※ 実施日予定日 平成25年11月15日

### 生徒の役割分担

〈5班編成〉

- ①避難所設営・運営班
- ②集団避難・誘導班
- ③炊き出し調理班
- ④保健・救急救護班
- ⑤災害状況・情報収集班

☆災害対策本部  
[生徒会・役員も担当]

南吉成中・学校支援組織  
「MY・SPチーム」  
(マイ・スクールプロジェクト)

〈支援担当の団体等〉

- 体育振興会・老人会
- 交通指導隊・消防団
- 婦人会・PTA
- 民生委員会・婦人会
- 町内会長・育成委員会

組織外からも支援

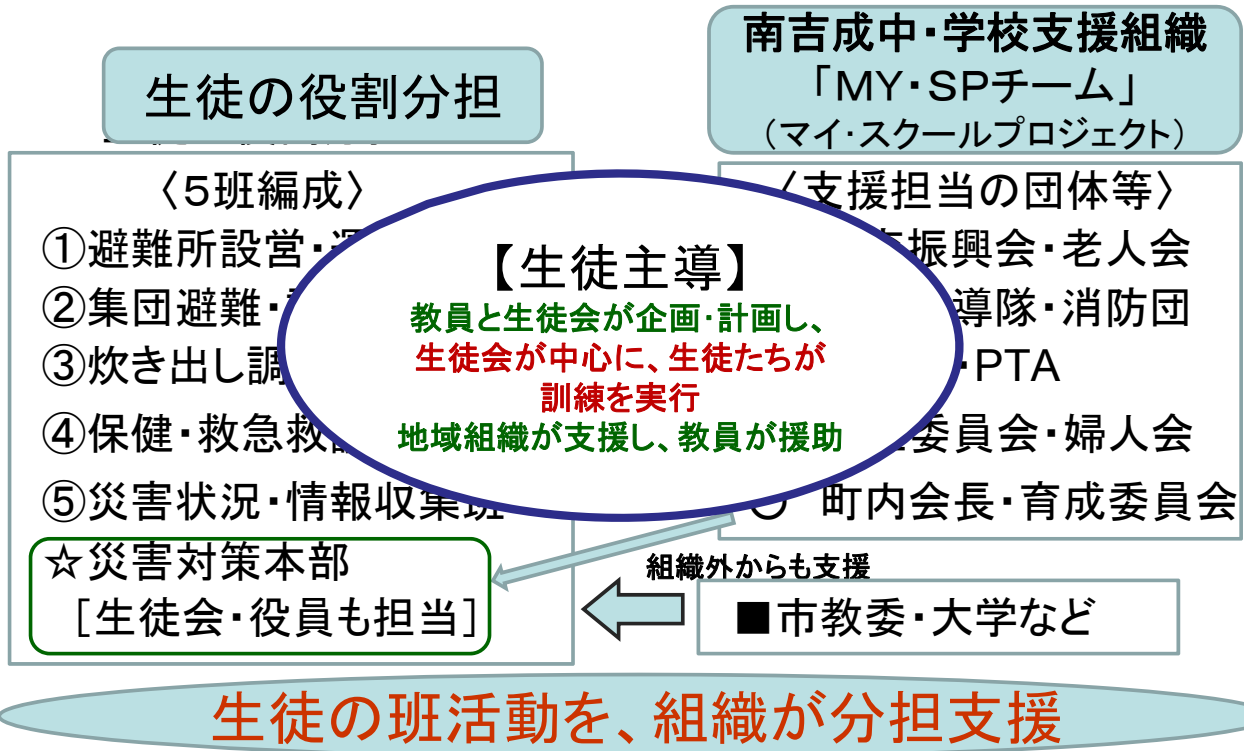
■市教委・大学など

生徒の班活動を、組織が分担支援



# 8 メインプラン; 生徒主導の地域防災訓練[1]

※ 実施日予定日 平成25年11月15日



## 8 H25・生徒主導の地域防災訓練の概要[2]

時刻	実施概要	生徒の活動	参加者の動向
8:15		生徒の登校	○集団避難訓練
8:30	地震発生	避難訓練	・地区毎に集合
9:00	住民避難・誘導	<班毎に活動>	・生徒が誘導して 避難所へ移動
10:00	避難所開設・運営	生徒会が訓練概要説明	○訓練概要を聞く
10:30	ポスターセッション	・炊き出し調理	○避難所・予備体験
11:00		・救急救護	○ポスターセッション に参加・視聴
12:00	炊き出し試食	炊き出し訓練 & 試食	
13:00	講演・シンポジウム	①講演「神戸復興の歩み、そして防災・減災への備え」 講師 住吉中・校長 中溝茂雄氏(元神戸市教委)	
16:00	生徒会が運営・実施	②生徒による班活動・報告と成果等の発表 ③総括講評:(仙台市教委、宮城教育大学)	

## 8 H25・生徒主導の地域防災訓練の概要[3]

### 班ごとの活動の様子

#### (1) 避難所設営・運営班



受付・相談の対応



訓練概要等の説明

#### (2) 炊き出し調理班



生徒32人が  
炊き出し調理



炊き出し  
の配給



参加者209人  
が試食  
生徒分を含め  
550食を提供

#### (3) 集団避難・誘導班



一時避難場所に集合



学校へ集団避難

## 8 H25・生徒主導の地域防災訓練の概要[4]

### 班ごとの活動の様子

#### (4) 救急・救護班



救護ブースの様子



生徒の康相談

#### (5) 災害状況

##### ・情報収集班



各家庭を訪問

午後の講演会  
チラシを配布



#### (6) 災害対策本部(生徒会)



本部の指示伝達



本部へ進捗状況報告



避難所にて、  
情報収集

## 8 H25・生徒主導の地域防災訓練の概要[5]

### 生徒と参加者のアンケート調査結果

- (1) 調査対象・・・訓練実施者：3年生103人、  
避難者役・視聴者：1・2年生198人、住民70人
- (2) 調査方法・・・四件尺度法による11項目の質問紙調査
- (3) 結果・・・選択肢“大いに”と“まあまあ”を加えた割合は、  
**全ての項目で9割を超え、良好な評価結果**  
選択肢“大いに”が3者で最も高いのは  
3年生 → 「中学生は地域防災に貢献できる」88.3%  
住民 → 「防災訓練等の防災教育は大切だ」88.8%  
1・2年生 → 訓練は良い・ためになる、実際の時に役立つ、  
訓練に参加・協力は必要の3項目で78.3%
- (4) 相関分析・・・3年生は“**学校と地域が一緒に取り組む、防災訓練の必要性や防災教育の重要性**”強く相関を認識

## 9 本プランの検証について[1]

- (1) 生徒主導による地域防災訓練を実践した3校・比較

学校名	地域特性の概要	生徒数	学校支援組織	生徒主導の地域防災訓練
A中 (丸森東中)	中山間地域で、少子高齢化と過疎化、兼業農家が多い	約50人	丸東・改援隊 (隊長：公民館長)	H21～H22 (H24.3 廃校)
B中 (金ヶ瀬中)	県南の中心地近郊で、跡継ぎ不足で農業が衰退	約100人	金未来隊 (隊長：公民館長)	H22 から継続実施
C中 (南吉成中)	仙台近隣の丘陵地で、大規模宅地開発されて二十数年経過	約320人	MY・SPチーム (隊長：連合町内会長)	H25 から実施

A中はH23.3の震災で校舎破損、他校を間借りのため継続が不能。B中はH22から継続実施。

## 9 本プランの検証について[2]

(2)メイン・プラン“生徒主導の地域防災訓練”と

3校で実践している多様なサブ・プランの関連

※ ○：A中で実施、△：B中で実施、□：C中で実施

N	実践プログラムのねらい		実践概要
1	震災を学ぶ	地震(津波)を学ぶ	東北大学地震・噴火予知研究観測センター長の講演 ○△
		大震災の教訓を学ぶ	津波被災農家の方々の講演 □
2	大震災を知る	大震災の復興支援活動を通じて	津波被災中学校の復旧支援活動 △ 津波被災農家に弟子入り体験学習 □ 仙台復興シンボルイベントを支える奉仕活動 □
3	震災に備える	備蓄食材の栽培加工	農家に弟子入り体験学習 ・手作業で稲作(田植え、除草、稲刈り、はせがけ、脱穀) ○△ ・梅干し加工(収穫、天日干し、シソ漬け) ○△ ・みそ造り(大豆の種まき、除草、収穫、大豆からみそ加工作業) ○
		防災スキルを学ぶ 地域特性を知る 備えを調べる	校内・炊き出し調理コンテスト □ ハザードマップを作成 ○ 10のテーマ別・調査学習 □
4	訓練を行う ○△□	訓練の支援準備	支援組織を立ち上げる： 地域が有する組織・団体等と連携して発足
		中学生が行う	中学生が主導する地域防災訓練 中学生が5班編成して、組織が分担支援
5	実践を広める	地元の町へ ○	町議会堂で模擬議会(防災関係議案の質疑)
		外部へ ○△□	防災教育チャレンジプラン ユネスコスクール加盟校(A、B、C中ともに加盟) ぼうさい甲子園 など発信
6	評価・改善する ○△□	自己評価分析	実践に当たってはアンケート調査等を行い、データ分析し、PDCA マネジメントサイクルを実行
		外部評価	N5の三者等による評価

メイン・プラン

## 9 本プランの検証について[3]

(3)メイン・プラン“生徒主導の地域防災訓練”実施後の

生徒アンケート調査の3校・比較

NO	調査項目の内容	学 校	大いに	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1	地域だけの訓練に比べ、学校と地域が一緒になって、防災訓練を行う必要がある	C 中	84.5	13.6	1.9	0
		B 中	54.5	42.0	2.3	1.1
		A 中	80.9	14.9	4.3	0
2	中学生が主導する地域防災訓練により、中学生は地域防災に貢献できる	C 中	88.3	11.7	0	0
		B 中	19.3	71.6	8.0	1.1
		A 中	51.1	48.9	0	0
3	本日の訓練で活動・体験して、良かった・ためになったと感じる	C 中	78.6	21.4	0	0
		B 中	43.7	47.1	6.9	2.3
		A 中	61.7	38.3	0	0
4	実際に大震災が起きた場合、地域防災訓練は役立つと思う	C 中	68.6	26.5	4.9	0
		B 中	35.2	53.4	8.0	3.4
		A 中	61.7	34.0		
5	中学生が主導する地域防災訓練は、毎年、実施する必要がある	C 中	61.2	35.0		
		B 中	44.2	47.7		
		A 中	53.2	38.3		
6	中学生や学校が地域防災訓練を行ったり、協力したりすることは必要と感じる	C 中	84.5	15.5		
		B 中	59.1	39.8		
		A 中	72.3	27.7		
7	地域や学校と一緒に様々な活動や取組を行うことは、地域活性化につながる	C 中	71.8	25.2		
		B 中	45.5	51.1		
		A 中	59.6	40.4		
8	地域防災訓練などの防災教育は、大切だと感じる	C 中	84.3	15.7		
		B 中	42.0	46.6	9.1	2.3
		A 中	65.2	34.8	0	0

選択肢“大いに”  
と“まあまあ”を  
あわせた割合は、  
いずれの項目も  
9割程度以上を占  
めている。

## 9 本プランの検証について[4]

3校・比較した[1]地域特性等、[2]サブ・プラン、[3]データ等から鑑み、以下にまとめをする。

- ①汎用性・・・地域特性等が異なる3校で、実践可能
- ②継続性・・・学校支援組織との連携からも、  
継続実践の可能性が向上
- ③発展性・・・地域特性等を活かす、  
多様なサブ・プランの実践
- ④有効性・・・様々な調査データから、  
成果・効果等を確認

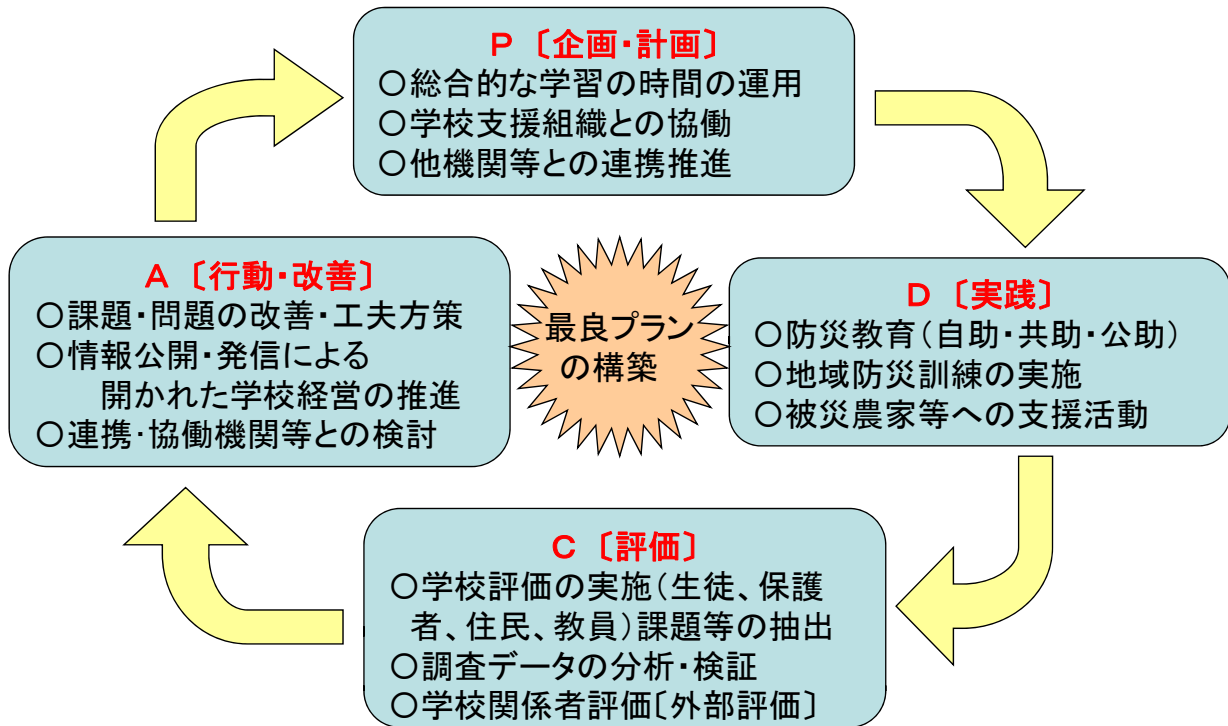
本プランは、サブ・プランにより防災・減災の知識とスキル、行動等を身に付け、活動意欲を高め、生徒がメイン・プランを実行、学校支援組織が連携する企画提案である。

## 10 学校支援組織と中学生・主導による取組の 教育的ねらい・効果

- ①地域の有識者からなる組織の支援は、地域と連携・地域を巻き込む必要がある教育実践に有効
- ②教職員が転勤しても、教育実践の持続可能性が高い（組織と生徒が継続し、地域防災ニーズの充足と教訓の継承）
- ③地域特有の防災教育の在り方の追究や産業・文化等を学ぶ機会や体験が拡充（人材バンク、伝統文化・芸能等）
- ④中学生が防災・減災の知識、スキル、行動等を学び、継続実践により現在から将来にわたる担い手を育成（すべての大人に防災教育を実施することは困難）
- ⑤住民等への関わり・つながりを高めることで、住民と生徒による地域活性化と安全・安心な街づくりに波及・寄与

# 11 PDCAによる検証・改善

## <より優れたプランに向けた改良のサイクル>



2007年5月7日 定禅寺通

ご清聴ありがとうございました。

仙台市立南吉成中学校